

年度	2023	学科・学年	理・1
授業科目	衛生管理	授業方法	講義
開講学期	後期	年間授業	37時間
授業単位数	1	必修・選択区分	必修
担当者	杓谷知里・高野敏彰		
実務内容	薬剤師 グリーンファーマシー ひまわり薬局 高知店		
テキスト	『衛生管理』 日本理容美容教育センター		
教育目標	理容師として必要な感染症の的確な知識、技能を習得する 代表的な感染症の病原体、感染源、感染経路、症状、予防対策などを理解する		
授業概要	公衆衛生学、微生物学の歴史と感染症の法律上の分類方法などから感染症の体系の理解を図る 美容の業務に必要な衛生管理の知識の理解を図る		
時間外学習			
授 業 計 画			
時間	項目	内容	
1	公衆衛生の意義と課題	健康の意義を理解する	
2～3	公衆衛生の発展の歴史	欧米や我が国の公衆衛生・消毒法にかかる歴史と歴史上の人物を学ぶ	
4～5	保健所と理容業美容業	保健所の機能と事業について把握する	
6～9	母子保健	母子保健の意義や健康管理を学ぶ	
10～13	成人・高齢者保健	生活習慣病、高齢者の保健と福祉、介護保険制度について学ぶ	
14～15	精神保健	精神保健行政について学ぶ	
16～19	環境衛生の概要	環境とは何かを理解する	
20～22	空気環境	空気や大気環境を学ぶ	
23～24	温度湿度気流と健康	健康で快適な生活について学ぶ	
25～26	衣服の衛生	衣服についての特性を理解する	
27～30	住居の衛生	住居の重要性について学ぶ	
31～32	上下水道と廃棄物	公衆衛生の基盤としての上水道廃棄物の処理システムを理解する	
33～34	衛生害虫とネズミ	健康を害する鼠族、昆虫等の対策を学ぶ・各種公害について学ぶ	
35～36	環境保全	具体的な衛生管理の概要について理解する	
37	テスト		
到達目標	美容師として必要な衛生における知識の理解を深める		
評価方法	1・学期末テスト 90% 2・出席状況 5% 3・学習意欲 5% 成績評価は秀(100～90)・優(89～80)・良(79～70)・可(69～60)・不可(59点以下)の5段階で表記する。合格評価は「良」を合格とする。		
履修上の注意	授業の出席状況と受講の態度に注意すること。		

年度	2023	学科・学年	理・1
授業科目	保健 (人体の構造及び機能)	授業方法	講義
開講学期	前期・後期	年間授業	68時間
授業単位数	2	必修・選択区分	必修
担当者	杓谷知里		
実務内容	薬剤師 グリーンファーマシー ひまわり薬局 高知店		
テキスト	『衛生管理』 日本理容美容教育センター		
教育目標	国家試験に向けて、人体の構造や機能について頭頸部を中心に学び、理解を深める。 保健衛生分野の職業である美容師に必要な解剖学や生理学について学ぶ。		
授業概要	人体の構造や機能を全体的に学び理解を深める。必要に応じてプリントなどを使用し理解を図る		
時間外学習			
授 業 計 画			
時間	項目	内容	
1～2	はじめに	授業の概要・人体の構造と機能	
3～6	人体各部の名称	人体各部の主な名称を(9つの部位)や、体の面と方向を学ぶ	
7～13	頭部・顔部・頸部	頭部・顔部・頸部の体表解剖学	
14～16	顔面	眼・耳・鼻・口とその周辺の特徴を学ぶ	
17～22	骨格器系	骨の種類と構造 ・ 骨の連結 骨格器系とそのはたらき(頭蓋・脊柱・胸郭)	
23～33	筋系	筋の種類とその特徴(筋の種類の表)、主な骨格筋とそのはたらき 表情筋と表情運動(眼・口・鼻や耳を中心とした筋の動き)	
34	前期テスト		
35～41	神経系	神経系の成り立ち(神経大別の表)や中枢神経とそのはたらき 末梢神経のはたらき(自律神経系支配の効果の表)や仕組み	
42～44	感覚器系	視覚・聴覚・嗅覚・味覚・皮膚感覚	
45～51	血液・循環器系	血液のあらまし・各血球成分の役割 血液循環のあらまし(心臓を中心とした循環を理解)	
52～57	呼吸器系	呼吸器系のあらまし・肺の仕組みとガス交換	
58～67	消化器系	消化器系のあらまし・消化管の仕組み 消化管の働き・消化と物質代謝	
68	後期テスト		
到達目標	理容師として必要な人体の構造や生理解剖学的な知識を系統的に理解を深める		
評価方法	1. 学期末テスト 90% 2. 出席状況 5% 3. 学習意欲 5% 成績評価は秀(100～90)・優(89～80)・良(79～70)・可(60～69)・不可(59以下)の5段階で表記する。合格評価は「良」を合格とする。		
履修上の注意	授業の出席状況と受講の態度に注意すること。		

年度	2023	学科・学年	理・1
授業科目	化粧品化学	授業方法	講義
開講学期	後期	年間授業	33時間
授業単位数	1	必修・選択区分	必修
担当者	森澤佐枝・仲田大吾郎		
実務内容	美容業務全般・理容業務全般（カット・パーマメント・ヘアカラー等）		
テキスト	化粧品化学 公益社団法人 日本理容美容教育センター		
教育目標	理容師に必要な化粧品化学分野の理解を深め、理容技術を高め安全に行う国家資格取得のための実力を養います。		
授業概要	テキストに沿って、化粧品概論、原料、基礎化粧品の順に講義し理解を図る		
授 業 計 画			
回	項目	内容	
1～12	化粧品概論	化粧品の社会的意義と品質特性を学ぶ 化粧品の定義や製造販売、品質、表示等の規制の理解を深める 化粧品の安全性と取り扱い上の注意事項を学ぶ 化粧品の安全性や表示成分、トラブル等を学ぶ	
13～19	化粧品原料	化粧品の対象となる人体各部の性状の知識を深める 水性顔料の種類と特性を学ぶ 油性顔料の種類と機能を学ぶ	
20～27	化粧品原料	界面活性剤の基本的な性質と種類と化粧品への応用を学ぶ 高分子化合物の種類と特性、化粧品への応用を学ぶ	
28～32	化粧品原料	色材と化粧品の関係や種類特性を学ぶ 香料の種類と調合等を学ぶ その他の配合成分として品質保持成分や特殊成分を学ぶ ネイル、まつ毛エクステンション用材料について知識を深める	
33	テスト		
到達目標	理容師として必要な化粧品の原料や種類、使用方法や安全性などを理解する		
評価方法	1・学期末テスト 90% 2・出席状況 5% 3. 受講の態度（小テスト等の提出物）5% 成績評価は秀（100～90）・優（89～80）・良（79～70）・可（69～60）・不可（59点以下）の5段階で表記する。合格評価は「良」を合格とする。		
履修上の注意	授業の出席状況と受講の態度に注意すること。		

年度	2023	学科・学年	理・1
授業科目	文化論	授業方法	講義
開講学期	後期	年間授業	33時間
授業単位数	1	必修・選択区分	必修
担当者	清藤千秋		
実務内容	理容業務全般（カット・シェービング・ヘアカラー等）		
テキスト	『文化論』 日本理容美容教育センター		
教育目標	理容美容の語義や歴史を学び日本のファッション文化史及び西洋のファッション文化史を学び現代までの変遷を学び理解する。また礼装における和と洋の違いと文化を学ぶ		
授業概要	「理容・美容」とは何か、価値観や美意識の多様化やニーズの文化と歴史と変遷を学びながら日本と西洋の相違点と融合の理解を図る		
時間外学習			
授 業 計 画			
時間	項目	内容	
1～14	総論・日本理容美容の歴史	理容業・美容業の発生の成り立ちを学ぶ 理容業・美容業（江戸時代・近代現代）を理解する 理容業、美容業の歴史の理解を深める 縄文・弥生・古墳時代、古代（飛鳥・奈良・平安）中世（平安末・鎌倉・室町・戦国）について学ぶ	
15～22	ファッション文化史・日本編	近世（戦国末・安土桃山）（江戸時代）について学ぶ	
23～32	ファッション文化史・西洋編	古代エジプト・ギリシャ・ローマ・ゲルマンの髪型、服装、化粧を学ぶ 近世（16～18世紀）の髪型や服装等時代背景を学ぶ 近代（18世紀末～19世紀）の髪型や服装等時代背景を学ぶ	
33	テスト		
到達目標	理容師の歴史や流行等を知り、今後のライフスタイルに生かす		
評価方法	1・学期末テスト 90% 2・出席状況 5% 3・学習意欲 5% 成績評価は秀（100～90）・優（89～80）・良（79～70）・可（69～60）・不可（59点以下）の5段階で表記する。合格評価は「良」を合格とする。		
履修上の注意	授業の出席状況と受講の態度に注意すること。		

年度	2023	学科・学年	理・1
授業科目	理容理論	授業方法	講義
開講学期	前期・後期	年間授業	70時間
授業単位数	2	必修・選択区分	必修
担当者	仲田大吾郎・清藤千秋		
実務内容	理容業務全般（カット・シェービング・ヘアカラー等）		
テキスト	『理容技術理論①②』公益社団法人日本理容美容教育センター		
教育目標	理容師として最低限必要な理論技術を理解し実践にて応用できる力を身に付ける 理論を理解し効率よい教育方法を行い技術を習得する。		
授業概要	技術を習得するには時間がかかるが、理容技術の意義を十分理解すれば技能の習得ができる。		
時間外学習			
授 業 計 画			
時間	項目	内容	
1～4	はじめに	理容の意義、職業としての理容の役割と衛生に関する知識を学ぶ	
5～7	人体各部の名称	理容技術は人の頭部・顔部に手を使って施術を行う対象となる各部の名称を正しく覚える	
8～10	理容技術の基礎・設備	技術部位に対する位置を学ぶ	
11～17	パーマメントセット	パーマの考え方や用剤の種類・特徴・かかる仕組みを理解する	
18～21	理容用具	理容師として理容用具を学ぶにあたり、人体と用具との関係を理解する 用具についての基礎的な知識を学び、理解を深める	
22～28	ヘアカッティング	ヘアスタイルを実際に作る手段としてカッティング技術の必要性を学ぶ その技術を十分理解してカッティング技術理論を学ぶ ヘアスタイルを作るための基本的な原則を理解する	
29	テスト		
30～47	まとめ	前期授業の振り返り	
48～55	理容エステティック	エステ本来の目的、人間の内面的な部分に及ぶ総合的な技術である事を学ぶ 肌の状態・機器についても十分な理解をする。	
56～62	ヘアカラーリング	染毛剤によって毛髪に様々な色彩をあたえ、ヘアスタイルや服装・生活に調和した美を表現することを学ぶ	
63～69	シャンプーイング	シャンプーは毛髪美容の基本である。頭皮・毛髪の清潔を保つことの意義を学ぶ シャンプー剤や技法について科学的理解を高めること学ぶ	
70～85	シェービング	シェービングはカッティングとならんで理容の主要な技術で シェービングにおける技術を行うにあたり皮膚と髭を十分理解する	
70	テスト		
到達目標	理容師として必要な技術理論を理解する		
評価方法	1・学期末テスト 90% 2・出席状況 5% 3・学習意欲 5% 成績評価は秀（100～90）優（89～80）・良（79～70）・可（69～60）・不可（59点以下）の5段階で表記する。合格評価は「良」を合格とする		
履修上の注意	授業の出席状況と受講の態度に注意すること。		

年度	2023	学科・学年	理・1
授業科目	理容実習	授業方法	実習
開講学期	前期・後期	年間授業	563時間
授業単位数	18	必修・選択区分	必修
担当者	清藤千秋・仲田大吾郎		
実務内容	理容業務全般（カット・シェービング・ヘアカラー等）		
テキスト	『理容実習①②』公益社団法人日本理容美容教育センター		
教育目標	国家試験にかかる技術を習得・理容室において必要な接客や技能技術を身に付ける技術への科学的根拠を理解し安全で安心な理容技術者としての育成を図る		
授業概要	理容技術における作業姿勢、用具の知識を学びそれらを使った様々な技術を実習 カッティング・ワインディング、パーマメント・ウェービング、ネイル、シャンプー、カラー、エステティック技術等		
時間外学習	校外実習において理容師としての基礎的技術及び接客の理解を深める		
授 業 計 画			
時間	項目	内容	
1～7	導入	理容技術における基本姿勢・用具説明・扱い方・実践	
8～200	パーマメントウェービング	ブロッキング技術・方向と手順・ワインディング・ロットの選定 ロットの角度と方向・コーミング技術 タイムトライアル 大会指導（Cライン巻き）	
201～236	デザインヘア	ブロッキング/デザインカットの基礎技術	
237～272	スタンダードヘア	ミディアムスタイル/ブロースのカットシステム及び技術姿勢を十分に理解し技能を身につける。	
273～280	期末試験	ワインディング技術	
281～337	フェイシャルトリートメント	作業位置/タオルの基本的持ち方/てん包・密着・清拭法 塗布/マッサージ/拭き取り スキンケア	
338～428	シェービング	メンズネック・シェービング、ウィッグ及び相モデルによる演習 レディースシェービング	
429～464	シャンプーイング&リンシング	スタンダードシャンプー/バックシャンプー	
465～555	総合復習	1年間を振り返りながら相モデル等で復習を行う。	
556～563	期末試験	シェービング及びフェイシャルトリートメント	
到達目標	国家試験の合格を目標とする。		
評価方法	1・技術確認テスト 90% 2・出席状況 5% 3・学習意欲 5% 成績評価は秀（100～90）・優（89～80）良（79～70）・可（69～60）・不可（59以下）の5段階で表記する。合格評価は「良」を合格とする。		
履修上の注意	国家試験必要と思われる項目について注意を喚起しながら講義を進める。		

年度	2023	学科・学年	理・1
授業科目	接客マナー	授業方法	講義
開講学期	前期・後期	年間授業	38時間
授業単位数	1	必修・選択区分	選択一般
担当者	北村和代		
実務内容	office K&K代表、接客マナー講師、社員教育講師、シビルウェディングミニスター		
テキスト	早稲田教育出版 『サービス接客検定・問題集』 ナツメ社 『サービス接客検定集中レッスン&問題集』		
教育目標	グローバル化が進む昨今何よりもきめ細かなサービスを身につけると共にお客様に対する考え方やおもてなしの形について学び検定を目指します		
授業概要	質の高いサービス「おもてなし」の心と型、現場でより良いサービスの提供ができるようテキストに沿いながら、実技も交えた講義 接客業を行う上でのサービス技術の理解を図る		
時間外学習	出題例などを利用し自分の技能レベルを確認する。		
授 業 計 画			
時間	項目	内容	
1～4	はじめに	まえがき・検定の受け方について理解する	
	必要とされる要件	明るさ、誠実さ、適切な判断と表現、身だしなみを理解する	
5～7	従業要件	良識ある素直な態度、協調性ある行動、清潔感、忍耐力について学ぶ	
	サービス知識	意義、技能、種類について理解する	
8～11	従業知識	商業・経済活動、商業・経済用語を学ぶ 社会常識・時事問題を理解する	
12～15	人間関係	人間関係の対処について理解を深める	
16～19	接客知識	顧客心理の理解、一般的マナー、接客者としてのマナーについて学ぶ	
20～24	話し方	接客用語、話し方、提示・説明の仕方について学ぶ・適切な服装を学ぶ	
25～28	問題処理	お客様からの苦情・問い合わせ・相談や要望・注文などの対応能力について学ぶ	
29～32	環境整備	店舗や周辺の清潔で整然とした状態にできるよう学ぶ	
	金品管理	金品管理のプロセスを正確・安全・丁寧に行えるよう学ぶ	
33～36	社交業務	慶事や弔事に関する知識に基づいた対応やマナーを学ぶ	
	過去問題		
37～38	講話	一般常識・時事問題・接客業について受講する	
到達目標	サービス業務に携わるためお客様に対する心構え、対応の知識や技能を身に付けプロのサービススタッフとして評価され育つことを目指す。 また、3級及び2級の取得を目指し接客マナーの理解を深める。		
評価方法	1・学期末テスト 90% 2・出席状況 5% 3・学習意欲 5% 成績評価は秀(100～90)・優(89～80)良(79～70)・可(69～60)・不可(59以下)の5段階で表記する。合格評価は「可」を合格とする。		
履修上の注意	過去の出題傾向などから必要と思われる項目について注意を喚起しながら講義を進める。		

年度	2023	学科・学年	理・1
授業科目	総合教養	授業方法	講義
開講学期	前期・後期	年間授業	44時間
授業単位数	1	必修・選択区分	選択一般
担当者	仲田大吾郎		
実務内容	理容業務全般（カット・シェービング・ヘアカラー等）		
テキスト	開講時に担当教員が指示及び配布する		
教育目標	「自分」と「将来」を見つけるために研究し理解する		
授業概要	確かな基礎知識・技術に加え考えるための道具＝方法を身に付け個の可能性を無限に広げ学ぶ喜びを図り業界や異業種の講師を迎え講話等を行い働く意義の等の理解を図る		
時間外学習	技術の自己研鑽		
授 業 計 画			
時間	項目	内容	
1～4	はじめに	オリエンテーション	
5～8	講話	初年度セミナー・コミュニケーション能力向上に向けた講話	
9～12	講話	初年度セミナー・今を有意義なものにする思考法 働くことの意義など	
13～19	講話・ワークショップ	初年度セミナー・先輩理美容師の人生を聞き目指す理美容師像を描く	
20～26	スポーツ大会	基礎的な体力づくりや各学年間でコミュニケーションを図る	
27～38	各種大会の練習	自主性と取り組むことの大切さを学び理解する	
39～44	講話・ワークショップ	前期の振り返り・発表 社会人として必要な教養の基礎をを改めて学びなおし理解を深める	
到達目標	理容師として必要な基礎的な教養などを身につける。		
評価方法	1・作文提出 90% 2・出席状況 5% 3・学習意欲 5% 成績評価は秀（100～90）・優（89～80）良（79～70）・可（69～60）・不可（59以下）の5段階で表記する。合格評価は「可」を合格とする。		
履修上の注意			

年度	2023	学科・学年	理・1
授業科目	カラーワーク (カラー・シャンプー)	授業方法	実習
開講学期	後期	年間授業	72時間
授業単位数	2	必修・選択区分	選択専門
担当者	仲田大吾郎		
実務内容	理容業務全般 (カット・パーマメント・ヘアカラー等)		
テキスト	『理容・美容理論』『理容・美容実習』1 日本理容美容教育センター		
教育目標	ヘアカラーとシャンプーング技術を習得・理容室において必要な接客や技能技術を身に付け安全で安心な美容技術者としての育成を図る		
授業概要	基本的なシャンプーング技術を実習にて習得・ヘアカラーによる塗布の手順・染毛剤と染毛料の塗布、染毛剤の調合、新生毛と既染部の塗布技術の理解と習得		
時間外学習			
授 業 計 画			
時間	項目	内容	
1～7	シャンプー概論	クロス掛け、ブラッシング、シャンプーング手順 (サイド) を理解する	
8～30	シャンプー技術	サイド及びバックシャンプーの一連の動作を習得する シャンプー一連の手順、リンス、タオルドライ、誘導、ヘアドライ バックシャンプー等1連の操作手順を習得する	
	ヘアトリートメント	トリートメント (ヘア・スカルプチュア)、ヘアパック、ヘッドマッサージ 操作手順を習得する	
31～42	テスト		
43～46	カラー概論	カラーの目的、カラー剤の種類、カラー用具、塗布の手順について学ぶ	
47～65	酸化染毛剤	タイプ別の塗布 (新生毛、リタッチ) 技術、乳化、コーミング等の実習する 白髪染め (新生毛、リタッチ) 技術をウィッグを使い実践作業を行う ロング、ショートヘア技術・スライシング・ウィービングを学ぶ	
66～72	酸性染毛料	塗布順序、コームテクニック (ロング、ショート) を学ぶ	
到達目標	理容師に必要なヘアカラーの知識と技術を身に付ける		
評価方法	1・技術の確認 90% 2・出席状況 5% 3・学習意欲 5% 成績評価は秀 (100～90) ・優 (89～80) ・良 (79～70) ・可 (69～60) ・不可 (59点以下) の5段階で表記する。合格評価は「可」を合格とする。		
履修上の注意	授業の出席状況と受講の態度に注意すること。		

年度	2023	学科・学年	理・1
授業科目	サロンワーク（コールド・ネイル）	授業方法	実習
開講学期	前期・後期	年間授業	66時間
授業単位数	2	必修・選択区分	選択専門
担当者	清藤千秋		
実務内容	理容業務全般（カット・シェービング・ヘアカラー等）		
テキスト	「理容技術理論 I」 「理容実習 I」 公益社団法人理容美容教育センター		
教育目標	コールドパーマメントウェーブの用剤・用具・テクニックの修得とネイル技術を習得し 理容室において必要な接客や技能を身に付け安全で安心な理容技術者の育成を図る。		
授業概要	ボリュウムとロッドの選定や毛束の角度の出し方を学ぶ。また、ロッドの形状によるウェーブ、 カール、ロール仕上がりを見る。		
時間外学習	理容理論		
授 業 計 画			
時間	項目	内容	
1～3	オールバックスタイル	男性の基本スタイルを学ぶ。	
4～7	サイドパート	流行・時代・世代にとらわれず好まれるスタイルを学ぶ。	
8～11	サーファースタイル	男性・女性を問わず好まれるスタイルを学ぶ。	
12～31	各スタイルの仕上げ	用剤の塗布の仕方や反応のチェックなどを行う。	
32～36	ネイルケア	手指消毒・ファイリングキューティクル処理・マッサージ・バッフィング 等を学ぶ	
36～66	ネイル技術	ネイルケア・ネイル塗布（ベースコート・カラーリング・トップコート） を習得する アーティフィシャルネイル（展示）ネイルアート（フレンチ・マーブル） を習得する フットケア・手足のマッサージを習得する	
到達目標	お客様の個性・容姿・服飾・好み・流行などを考えたパーマスタイルデザインの修得。 ネイル検定3級取得に向けた基礎的ネイル技術の習得。		
評価方法	1・技術の確認 90% 2・出席状況 5% 3・学習意欲 5% 成績評価は秀（100～90）優（89～80）・良（79～70）・可（69～60）・不可（59点以下）の5段階で表記する。合格評価は「可」を合格とする		
履修上の注意			

年度	2023	学科・学年	理・1
授業科目	デザイン工学(刃物工学・デザインカット)	授業方法	実習
開講学期	前期	年間授業	66時間
授業単位数	2	必修・選択区分	選択専門
担当者	仲田大吾郎・山下哲二・岡 省吾		
実務内容	理容業務全般(カット・シェービング・ヘアカラー等)		
テキスト			
教育目標	デザインヘアをつくるための目的に応じたシザーズやコームの持ち方・操作・技法を学ぶ。 理容師として必要な刃物の構造や頭部の成り立ちを理解し、それぞれに対応するヘアデザイン設計の仕方を学ぶ。		
授業概要	基本のカット順序の応用、それぞれの長さと共に変化するカット技法の違いその範囲に納まるスタイルの理解を図る。 刃物の切れ味や研磨の影響、金属の性質・硬さなどを理解し実際に研磨を行い理解を図る。		
時間外学習			
授 業 計 画			
時間	項目	内容	
1～7	刃物の構造を知る	レザー・シザーズの種類や構造を理解する	
8～14	刃物の研磨	レザー・シザーズの研磨技術を学ぶ	
15～21	頭や顔のバランス	頭部の成り立ちを理解し、相モデルによる顔のデッサン、顔形を知り特徴を理解しながらヘアデザインの基本を学ぶ 顔部の3つの形の特徴を学び、各型のカバーポイントを理解する 頭部の3つの形の特徴を学び、各型のカバーポイントを理解する	
22～26	頭や顔のバランス総合	学んだことを活かしデザインヘアを描く 各自が書いたデザイン画に基づきカバーポイントやセールスポイントなどのコンセプトを発表する	
27～29	テスト		
30～37	カットの実際理論	デザインヘアの基本原則・用具の持ち方と操作を学ぶ	
38～43	カットの実際	デザインヘアのカット技法・ワンレングス/グラデーショ/スクエア/レイヤーを理解する ブロッキング・ワンレングスカット グラデーションカット/インサイドグラデーション アウトサイドグラデーション スクエアカット・レイヤーカット	
44～51	確認		
52～59	実習	レディースカットの一例を学ぶ	
60～66	テスト	各技術の復習・確認	
到達目標	理容師として必要な得た知識を、一人一人に合ったスタイルなどを提案し、それを活かせるよう基礎的技術の向上を目指す。		
評価方法	1・技術の確認 90% 2・出席状況 5% 3・学習意欲 5% 成績評価は秀(100～90) 優(89～80)・良(79～70)・可(69～60)・不可(59点以下)の5段階で表記する。合格評価は「可」を合格とする		
履修上の注意			

年度	2023	学科・学年	理・1
授業科目	メンズスタイル (ミディアムカット・アイロン技術)	授業方法	実習
開講学期	後期	年間授業	66時間
授業単位数	2	必修・選択区分	選択専門
担当者	清藤千秋・坂本康正		
実務内容	理容業務全般（カット・シェービング・ヘアカラー等）		
テキスト	『理容技術理論』『理容実習』公益社団法人日本理容美容教育センター		
教育目標	各技法の勉強も含めカットのシステム及び技術姿勢を理解する アイロンをぶれないようにしっかり持ち均一の熱・圧力・テンションをかけれるようトレーニングする		
授業概要	寝かせる部分と刈り上げる部分を組み合わせるスタイルでスタンダードヘアカットの基本を理解を図る パーマネットウェーブの効果をアイロンを使用して同じような効果の理解を図る		
時間外学習	技術の自己研鑽		
授 業 計 画			
時間	項目	内容	
1～4	理論	中髪型（ミディアムヘア）スタンダードヘアの基本型を学ぶ	
5～8	技術	スタンダードヘアのカット技法（すくい刈・連続刈・押し刈・固定刈・指間刈・回し刈・直鋏）を学ぶ	
9～30	技術	ミディアムヘアのカット順序はシステム化されて合理的に短時間で仕上げられる。細かく規定されているが、決められた位置や姿勢を行いコームの運行角度／櫛数を正確に繰り返し覚える。クリッパーワーク・連続刈・すくい刈・固定刈・指間刈・直鋏・クリッパーラインのぼかし・髪際部/もみあげ/ネック周辺の処理を習得する	
31～35	テスト		
36～44	理論	アイアニング 持ち方と技法を学ぶ	
45～53	技術	温度を110～130度に設定し平型・細丸アイロンでショートヘアの根元を曲げアイパー技術を学ぶ。	
54～62	技術	温度を110～130度に設定しあらかじめ立てたデザインに沿ってカールをつくる技術を学ぶ。	
63～66	テスト		
到達目標	最大のパートナーであるお客様の信頼を得るために技術を磨くとともにお客様から喜びを受け取るよう理解を深める		
評価方法	1・技術の確認 90% 2・出席状況 5% 3・学習意欲 5% 成績評価は秀（100～90）優（89～80）・良（79～70）・可（69～60）・不可（59点以下）の5段階で表記する。合格評価は「可」を合格とする		
履修上の注意	国家試験必要と思われる項目について注意を喚起しながら講義を進める。		

年度	2023	学科・学年	理・1
授業科目	シェービング・エステ	授業方法	実習
開講学期	後期	年間授業	73時間
授業単位数	2	必修・選択区分	選択専門
担当者	清藤千秋		
実務内容	理容業務全般（カット・シェービング・ヘアカラー等）		
テキスト	『理容技術理論』『理容実習』公益社団法人日本理容美容教育センター		
教育目標	メンズ・レディース・ブライダルなどのシェービング技術とエステ技術の両方を学ぶ		
授業概要	お顔そりからデコルテや背中までカミソリを使ったシェービングケアを学ぶ		
時間外学習	技術の自己研鑽		
授 業 計 画			
時間	項目	内容	
1～7	理論	皮膚の構造・感覚やひげ、衛生面や感染症、シェービングの種類について学ぶ。	
8～11	導入	シェービングを実現するための作業姿勢・位置・イスの操作などを学ぶ。	
12～14	レーザーの持ち方 運行操作	神経を使う技術の為、レーザーの持ち方から操作の原理を理解する。	
15～25	メンズシェービング	シェービング及びグルーミング術を理解する。	
26～40	マニピュレーション マッサージ サクションマッサージ	フェイシャルトリートメント・フェイシャルケアの目的をよく理解し適切な処置ができるよう学ぶ。	
41～45	レディースシェービング	女性の繊細な肌に効果的なシェービング技術を理解する。また、器具・用具・化粧品を含め十分な理解と眉・頸部などのデザイン・カウンセリングを学ぶ。	
46～50	マニピュレーション マッサージ サクションマッサージ	レディースシェービング前後の処置として効果的な技術を理解する。	
51～54	テスト		
55～61	エステティック	スキンケア（クレンジング～パック剤・使用機器まで）を理解する。	
62～68		フェイシャルケア（フェイシャルトリートメント）	
69～73	テスト		
到達目標	最大のパートナーであるお客様の信頼を得るために技術を磨くとともにお客様から喜びを受け取れるよう理解を深める		
評価方法	1・技術の確認 90% 2・出席状況 5% 3・学習意欲 5% 成績評価は秀（100～90）優（89～80）・良（79～70）・可（69～60）・不可（59点以下）の5段階で表記する。合格評価は「可」を合格とする		
履修上の注意	国家試験に必要なと思われる項目であり注意を喚起しながら講義を進める。		